

現時点でのコロナ感染症に対する事務局の対応について

令和2年9月7日

三田会の活動に際し、私達は国や都の見解に基づいて判断しながら、会員の大多数である60歳以上という重症化危険層への感染の可能性を極力排し、クラスターの素とならないよう十分注意していきたいと考えています。

9月5日現在の状況は次の通りです。

1) 東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議の見解

(9月3日(木)発表を引用)

先週(8月27日)に引き続き、現在の感染状況は4段階のなかで最も深刻な「感染が拡大していると思われる」。新規陽性者と接触不明者数は減少傾向にあるものの、その速度は緩やかである。医療提供体制は引き続き4段階の3段階にあたる「体制強化が必要と思われる」。医療機関への負担は長期化している。重症患者数の今後の推移に警戒が必要である。

2) 我々が会議等で利用する場所での感染症の発生状況(9月5日現在の公式発表)

8月29日阿佐ヶ谷地区区民センター利用者1名の陽性が確認され、同じ利用団体の他の方々はその後の検査で陰性が確認されました。その他、井草区民センターやゆうゆう高円寺北館でも8月下旬に利用者の陽性がかくにんされています。その後、感染者の拡大の無い事が確認されたので、施設利用の制限措置は行われておりません。

これら公的な状況判断や身近な動向が改善されていない間は世話人会や運営委員会の開催、或いは多くの会員を対象にする行事は慎重に考えていきたいと思えます。

会の運営に必要な人事や重要な事項の連絡/承認は事務局よりメールにて役員の皆様に連絡しての処理を特例として認めて頂きたいと思えます。メール交信が不可能な方については郵送で確認をお願い致します。

一般的な情報展開や確認のお願いについては3ヶ月毎に発行される会報の紙面を有効に活用させて頂くと同時に、ホームページ上でも随時、事務局より情報連絡を行ってまいります。会員の皆様もホームページの情報確認をこれまで以上に宜しくお願いします。

分科会活動についても会員の皆さんの年齢や体調に十分留意されながら、分科会世話人の方々が活動の在り方に苦勞されていると思えます。国や都の対応は「社会経済活動と感染拡大防止の両立に向けて取組み」に移りつつあり、感染リスクをコントロールしながらの活動と言われていますが、我々は会員の健康を第一に考慮した活動を目指すべきであり、経済活動とのトレードオフはないと思えます。この考え方を前提にして「新しい生活様式」を定着させつつ、末永く三田会活動を楽しめる環境作りを目指したいと考えています。

会員に皆様にも三密回避、マスク着用、手洗い励行などの感染対策の基本と共に、各自の健康管理のより一層の徹底などを通じて、最近増加傾向にある家庭内感染防止にも留意して頂きたいと考えております。

杉並三田会 事務局